



User's Profile

株式会社ワコール 様



株式会社ワコール

名称：株式会社ワコール
所在地：〒601-8530
京都府京都市南区吉祥院中島町29
URL：http://www.wacoal.jp/

1946年創業の繊維製品製造業メーカー。「世の女性に美しくなって貰う事によって広く社会に寄与する」をグループ目標に、「相互信頼」を社是とし、インナーウェア（主に婦人のファンデーション、ランジェリー、ナイトウェアおよびリトルインナー）、アウターウェア、スポーツウェア、その他の繊維製品および関連製品の製造、卸売販売および一部製品の消費者への直接販売を主な事業としている。



株式会社ワコール
執行役員
情報システム部
部長
森本 秀治 氏



株式会社ワコール
情報システム部
グループ情報システム課
課長
大西 輝昌 氏



株式会社ワコール
情報システム部
グループ情報システム課
係長
杉田 将 氏



株式会社ワコール
情報システム部
グループ情報システム課
赤崎 満智子 氏

新基幹システムのDB基盤にUSiZE for Exadataを採用 2倍のインフラを従量課金で最小限のコストに抑え DB運用サービスで障害対応と安定性を大幅に強化

課題

- DBの無償サポートとハードウェア保守の期限が迫る
- ストレージ利用率が逼迫し、拡張性も不足
- サポート範囲がインフラ限定でパッチ適用がサービス対象外

解決

- 最新のExadataを活用しDBも最新にアップデート
- 本番機と開発機の2台構成に増強しストレージも約9倍に拡大
- DBの監視や保守作業、パッチ適用もサービスに含め安定性を向上

個別最適化の基幹システムを統合し 2018年4月から新基幹システムを稼働

株式会社ワコール(以下、ワコール)は創業以来70年以上にわたり、女性の美しさや価値観、個性を尊重した研究開発、生産技術、販売チャンネルなどすべてのビジネスプロセスで独自のノウハウを活かした事業活動を推進し、世界中の女性に愛される商品づくりに挑戦し続けてきた。

同社は、顧客ニーズの多様化や市場拡大に対応し、収益率向上を実現するための基軸として2017年4月に新たにチェーンストア事業本部を立ち上げ、売り上げ全体の7割強を占める主力ブランド「ワコール」および「ウイング」の2事業本部を統合して重複していたチェーンストア事業を一本化。量販店チャンネルにおける統合販売体制の基盤づくりや、一体運営による売場提案力の向上などをめざしている。また同時に、ネット通販を担う「オムニチャネル戦略推進部」を新設。同社が強みとする百貨店・専門店・量販店・直営店などの店舗販売網を生かした顧客接点を強化し、店舗とウェブが相互

に補完できる「ワコール版オムニチャネル」を構築する計画だ。

それらの実現に向けて、ブランドごとに個別最適化していた基幹システムを統合し、2018年4月から新基幹システムが本格稼働する。その心臓部となるデータベース基盤には、SCSKのクラウドサービスソリューション「USiZE」上でOracle Database (DB)に最適化されたエンジニアードシステム「Oracle Exadata Database Machine」(Exadata)を稼働させるためのPaaSソリューション「USiZE for Exadata」が採用された。USiZE for Exadataの国内採用例はワコールの新基幹システムが初めてとなる。

執行役員 情報システム部 部長の森本 秀治氏は、「当社は今、チェーンストア事業の一本化とオムニチャネル戦略に全社を挙げて注力し、ネットでお客様にリーチした後にリアルな店舗へ誘導する新たなミッションに取り組んでいます。そのための新基幹システムの構築において、SCSKが提案してくれたUSiZE for Exadataを軸とする開発プロジェクトが佳境を迎えているところで」と語る。

旧Exadata運用で表面化した データベース基盤の3つの課題

ワコールとSCSKのつながりは2006年にActive DirectoryサーバとファイルサーバをUSiZEとして提供することからスタートした。その後、UNIX系の基幹システムDBとアプリケーションサーバもUSiZEプライベートモデル上で運用を開始。2013年にはOracle Exadata Database Machine X3(以下 旧Exadata)を採用して各部門に散在したDBを順次統合し、2014年からはアプリケーションサーバをUSiZEシェアードモデルへ移行して投資の最適化を図った。

しかし、旧Exadataを運用していく中でいくつかの課題があったという。1つはサポートの期限。当時活用していたOracle DB11gの無償サポートが2017年5月に終了するのに続き、旧Exadataのハード保守も2018年12月までと迫っていた。

2つ目はストレージの逼迫と拡張性の欠如。情報システム部 グループ情報システム課 課長の 大西 輝昌氏は、「当社のDBではトランザクション系のデータが多く更新時のレスポンス悪化を恐れデータ圧縮しない使い方をしていたために旧Exadataのストレージ利用率が90%に逼迫する状況でした。また当時の旧Exadataの仕様ではストレージを拡張する場合にExadataをラック単位で1セット追加購入するしかなく、新たな業務を取り込む際のコストが大きすぎるため、将来のシステム運用に大きな不安があったのです」と振り返る。

そして3つ目が運用サービスの偏向。当時のSCSKとの契約ではサポート範囲がインフラ機器の提供とインフラ運用管理業務としたため、Oracle DBでの未知や既知のバグなどによる障害対応や、定期・不定期で配布されるパッチ適用がコスト負担を生んでいたという。

情報システム部 グループ情報システム課の 赤崎 満智子氏も、「パッチ適用は必要不可欠な要素ではありますが、それが繰り返される度に上司への報告と予算の承認を受けなければならず、一方では現場との日程調整に奔走するなど業務の負担となっていました」と打ち明ける。

大西氏も続ける。「実のところExadataを今後も活用するか否かを真剣に議論したこともありまし

が、圧倒的なパフォーマンスのほか、乱立していたDBサーバを集約してライセンスを撤廃するなどのメリットもあり、通常のDBサーバに戻るにはハードルが高いと感じていました。そんな中、SCSKがサポート体制を強化すると並行して全く新しいExadata活用ソリューションを提案してくれました。それがUSiZE for Exadataだったのです」

ワコールとSCSKが課題を共有し 解決策をメニュー化して生まれた USiZE for Exadata

USiZE for Exadataは最新のExadataを採用し、1)インフラ資源提供サービス、2)オラクル運用サービス、3)オプションサービスといったメニューを用意する形で運用管理の難しさをカバーしている。Exadataは2台構成(本番機、開発機)へと増強し、ストレージリソースもユーザ利用領域で従来の約9倍に拡大。バックアップも容量に合わせて拡充した。Oracle DBアップデートに対応するための開発環境を用意するとともに、パッチ適用時の検証を実施しやすくすることで不具合への対応を強化。将来に渡り十分なストレージ容量も確保した。

また、SCSK側でOracle DBの監視や保守作業の定型化、パッチ適用の定型化もサービス対象に含め、障害へのプロアクティブな対応や、状況の可視化と安定性を向上。サービス品質にSLAを標準化するとともにITILを基にしたサービス設計で安心のサポートを保証している。Exadataは2台となったが、オンプレミスでの一括購入ではなく基本料金プラス実績に応じた従量課金のサービス利用にしたことでトータルコストで見るとかなり節約できたという。

情報システム部 グループ情報システム課 係長の 杉田 将氏は、「SCSKがオンサイトで積極的にコ

株式会社ワコール 様

ミュニケーションし、意欲的な提案してくれたおかげで当社との間で課題共有ができたのだと思います。そうした解決策をメニュー化していく中で、USiZE for Exadataはベストな選択でした」と述べる。関西圏でExadata導入実績No.1のSCSKに所属するオラクル専門技術者による24時間のハイレベルなサポートや、運用DBA作業(DB作成・パフォーマンス監視・チューニング)の実施など、Exadata利用の際に発生するほぼ全ての不安を解消するサービスとなっていることを杉田氏は高く評価する。

USiZE for Exadataの導入効果について大西氏は、「ストレージ容量が大幅に拡張したため、旧Exadataに吸収できなかった基幹システムを今度こそ全てExadataに統合できそうです。それらをUSiZE for Exadataに統合することで運用コストの削減やライセンス費用の集約がある程度見込めると思います」と話す。

ワコールでは2018年の夏から秋頃までにUSiZE for Exadataへの移行を完了する予定だ。その後、年末や2019年初頭にかけてUSiZE for Exadataに乗っていない新たなシステムの収容も計画されているという。

そして、森本氏はこれまでのプロジェクトを振り返り、「現在はUSiZE for Exadataが最適解ですが、4~5年後は別のソリューションという選択肢もあるかもしれません。周辺のシステムもパブリッククラウドサービスを中心に急速にクラウド化が進んでいくため、今後もSCSKにはそれらとの連携を見据えた優れた提案いただきたいと思っています」と期待を込めて語る。

SCSKは、今回のワコールにおけるUSiZE for Exadataサービス提供を機にポートフォリオ化し、他の企業にも標準サービスとして拡大していく考えだ。



SCSK SCSK株式会社

ITマネジメント事業部門

〒135-8110 東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜1-8-16 大阪証券取引所ビル

e-mail: u4x-sales@ml.scsk.jp

Web : <https://www.scsk.jp/>

SCSKカスタマーセンター (SCSKの製品・サービスに関するお問い合わせ受付窓口)

0800-500-4000 (無料) 受付時間/月~金 9:00~18:00
(祝日、年末年始、当社指定日を除く)

● 携帯電話でのお問い合わせ TEL : 03-6670-2990

※ 記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
※ 記載製品の仕様は予告なしに変更される場合があります。
※ 記載の内容は2018年1月現在のものです。
※ OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。